令和７年度　江戸川区立篠崎第五小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	思いやりのある子 よく学びよく考える子 心も体もつよい子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	夢と勇気と笑顔にあふれる学校 学力と体力が向上する児童 正しく丁寧な言葉遣いをする　「分かる授業」を追求する　心が通う明るく温かく元気な太陽の挨拶をする　「言ったことは最後まで」徹底する　教職員
前年度までの本校の現状	成果	・子供たちはどの学習にも前向きに取り組み、自分の力を伸ばそうとする姿が見られた。 ・「かかわり」を大切にすることで、豊かな心を育むことにつながった。 ・各学年の学習に竹林や田んぼ、畑などを使った活動を位置付け、地域や保護者の方々の協力をいただきながら活動を行うことができた。	課題	・基礎・基本の定着を目指し、一人一台端末を活用したり、家庭学習の習慣化を図ったりすることが課題である。 ・本校の伝統である裏庭を活用した学習を今後も大切にし、「かかわり、共育・協働のある学校づくり」を継続的に行っていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・授業スタイル「篠五授業スタンダード」の実施	・毎学期確認し、教員内部評価の肯定回答９割											
		・学校だよりや「江戸川っ子study week!」等で家庭学習習慣について啓発	・家庭学習時間（学年×10分）の実施率8割											
	○読書科の更なる充実	・学校図書館を利用した「問題の発見・解決、情報の処理、まとめ・表現する」調べ学習の実施	・2年生以上において毎学期実施											
体力の向上	○体力向上のための取り組みの実施・充実	・なわとびチャレンジウィーク年３回、持久走週間（11～12月）の実施	・児童アンケート「休み時間、校庭で遊びや運動ができた」の肯定回答９割											
		・体育科の授業改善の推進	・体育の授業に関する研修会年１回、研究授業年６回の実施											
共生社会の実現に向けた教育の推進	○特別支援教育の推進	・巡回指導教員を中心とした研修会、授業の実施 ・特別支援教育コーディネーターを2名配置し、支援体制を整える。	・年２回実施 ・校内委員会の毎月実施											
	○副籍交流の実施・充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期２回以上の実施											
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	・たてわり活動、全校校外活動などかかわり合いのある活動の充実	・児童アンケート「思いやり」「良好な友達関係」の肯定回答９割											
	○いじめ・不登校の未然防止	・いじめ対策基本方針に基づいた児童の健全育成といじめの防止、早期発見や早期対応の強化	・いじめに関する授業を各学級学期１回以上実施											
		・児童一人一人の実態に合わせた生活指導の充実 ・SC、SSWとの連携強化	・児童の情報共有を生活指導夕会で週１回実施											
学校・家庭・地域	○学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・学校だより・学年だより等を月１回、「できごと」を週3回以上更新											

域社会に開かれた（園）の実現	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、教職員へのアンケート調査の実施 ・学校評議委員会の開催	・児童年1回、保護者年7回、教職員年２回実施 ・年3回実施												
	○学校公開の実施・充実	・学校公開の実施、ホームページでの周知	・年４回												
特色ある教育の展開	○田んぼの学校、篠竹の学校、農園のある学校としての活動の充実	・１～４年生は農園での野菜作り、５年生は稲作、６年生は筍堀りを行う。	・農園活動についての児童、保護者の肯定回答８割												
	○規律が保たれ、すべての児童が安全に安心して過ごせる学校づくり	・「静・整・動」（話を聞く・時間を守る、掃除を大切にする・挨拶をする）に重点的に取り組む。	・児童アンケート「『静・整・動』を意識して生活できた」の肯定回答８割												